

「『アルト・ハイデルベルク』を味わい尽くす～その(2)」

お話・演奏：田辺 秀樹（一橋大学名誉教授）

ドイツの作家ヴィルヘルム・マイアー＝フェルスター作の戯曲『アルト・ハイデルベルク』は、19世紀末の大学都市ハイデルベルクを舞台に、当地に遊学したザクセンの小公国の皇太子カール・ハインリヒと下宿先の娘ケーティとの恋愛の顛末を描いた、甘く切ないラブ・ロマンスです。1901年にベルリンで初演されて大成功を収め、日本でも1912年に松井須磨子のケーティ役で初演され、以来かなり良く知られた舞台作品として上演され続けています。1924年にはアメリカ人作曲家ジグムント・ロンバーグによるブロードウェイ・オペレッタ『学生王子』として生まれ変わり、これもまた人気を集めました。ドイツではともすれば「古臭くて甘ったるい陳腐なラブ・ロマンス」として、インテリからは馬鹿にされがちなところもある、ある意味「キッチュ的」な作品ですが、あえてこれを2回にわたって取り上げて、そのしびとい魅力を探ってみたいと思います。

後半はお飲物とともにピアノ演奏をお楽しみいただきます！

日 時 2017年 10月31日 (火) 14:00～16:30

参加費 ¥3,500 (ワイン、お茶、おつまみが付きます)

会 場 カーサ・モーツァルト

東京都渋谷区神宮前1-10-23 3F

JR「原宿駅」徒歩5分

東京メトロ「明治神宮前駅」出口5徒歩2分

ラフォーレ原宿裏、東京中央教会前



申込み メール：info-cmma@casamoz.org

FAX：03-3497-1833

メールまたはFAXにお名前、ご連絡先、ご希望人数を明記ください。

田辺 秀樹 (タナベ ヒデキ)

1948年東京生まれ。東京大学大学院ドイツ文学科修士課程修了。ボン大学に留学し、ドイツ、オーストリア各地でオペラ見物やコンサート通いに精を出す。専門はドイツ語・音楽文化論。研究対象はモーツァルト、ドイツ語圏の歌曲、歌劇、芸能など。音楽評論、放送番組解説でも活動、秘かに「酒席ピアニスト」としても活躍している。著書に「モーツァルト」（新潮文庫）、「モーツァルト16の扉」（小学館）。「リヒャルト・シュトラウスの実像」（共著・音楽之友社）ほか。



Casa Mozart
MUSIC ASSOCIATION

一般社団法人カーサ・モーツァルト / Casa Mozart Music Association

<http://casamoz.org> <https://www.facebook.com/CasaMozart>